

国内における豚熱の発生状況について

1. 飼養豚

- 岐阜県で26年ぶりに感染が確認された平成30年9月以降、発生農場は19都県（岐阜県、愛知県、長野県、滋賀県、三重県、福井県、埼玉県、山梨県、沖縄県、群馬県、山形県、和歌山県、奈良県、栃木県、神奈川県、宮城県、茨城県、東京都、兵庫県）に拡大して87事例が発生。これまでに約35.7万頭を殺処分。

※直近の発生：令和5年7月22日：国内87例目 兵庫県南あわじ市 650頭

養豚場での対策

- ① 飼養豚全頭に対するワクチン接種
- ② 野生いのしし侵入防止対策(養豚場周囲での防護柵等の設置)
- ③ 飼養衛生管理基準の遵守（消毒対応等による飼養エリアへのウイルス侵入防止対策）

2. 野生いのしし

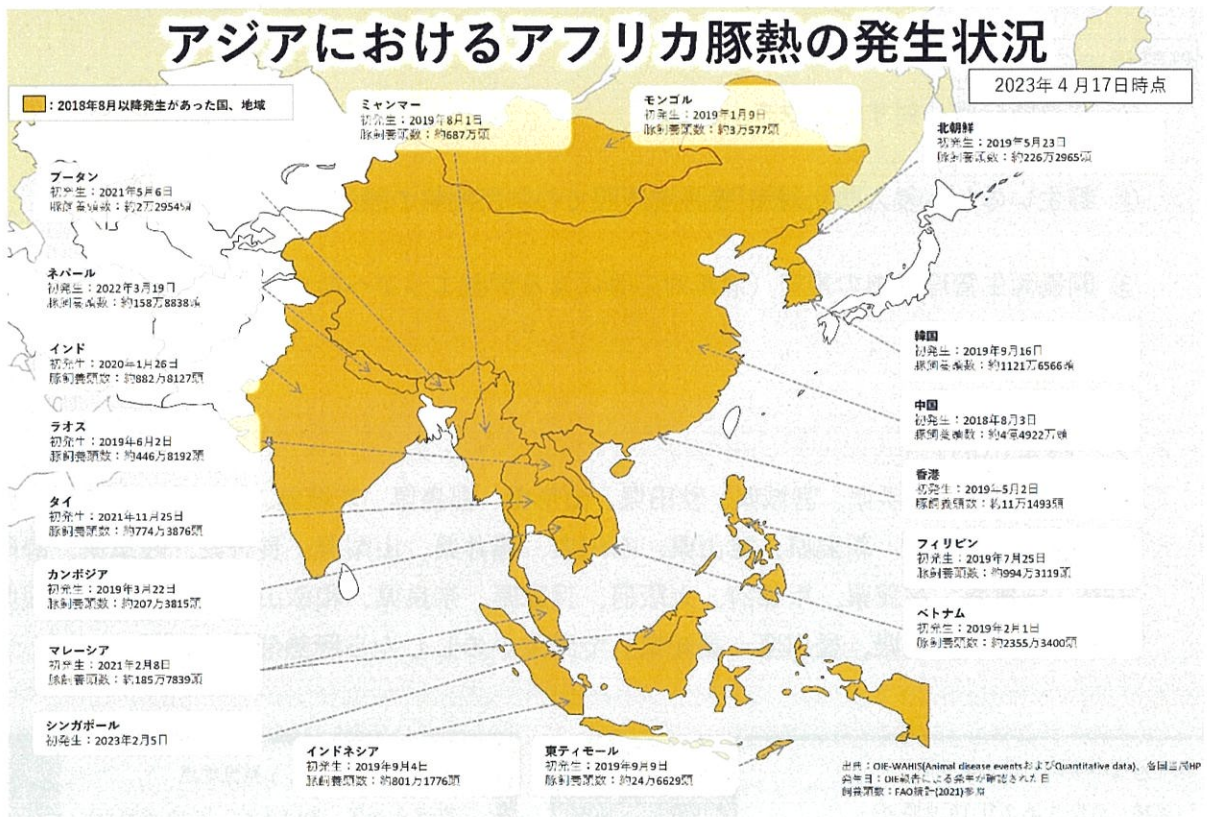
- 34都府県（岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、広島県、山口県、徳島県、香川県、高知県）で野生いのししから豚熱感染を確認。



アフリカ豚熱の感染状況について

1. アフリカ豚熱とは

- ◇日本国内では、これまで本病の（いのししや飼養豚での）発生は確認されていない。
- ◇アフリカでは常在的に、ロシア及びアジアでも発生が確認されているため、海外からの日本国内への侵入が危惧されている。
- ◇アフリカ豚熱（ASF）は、ASF ウイルスが豚やいのししに感染することによる発熱や全身の出血性病変を特徴とする致死率の高い伝染病。
- ◇有効なワクチンや治療法はない。



2. 日本国内における空港検疫での確認事例

- ◇動物検疫所にて、ASF 発生国からの旅客が所有し、日本の到着空港で輸入が認められなかった豚肉製品の一部について ASF ウイルスのモニタリング検査を実施。
- ◇令和 5 年 2 月 23 日時点で豚肉関連製品から 109 例の ASF 遺伝子陽性事例を確認。（内 4 件でウイルス分離検査陽性）

▼仙台空港での確認事例

48例目	到着日: 2019年6月17日 品目: ソーセージ (0.3 kg) 遺伝子陽性確認日: 2019年6月26日	(大連発、仙台空港着) (口頭質問)	
86例目	到着日: 2019年12月18日 品目: ソーセージ (0.6kg) 遺伝子陽性確認日: 2019年12月25日	(上海発、仙台空港着) (税関検査)	

本県における野生いのししの豚熱・アフリカ豚熱ウイルス監視検査

◇本県においても死亡又は捕獲した野生いのししの豚熱とアフリカ豚熱の両疾病について遺伝子検査を実施。(アフリカ豚熱については、いずれも遺伝子陰性を確認)

▼本県における豚熱遺伝子検査の結果(R5.7.27時点)

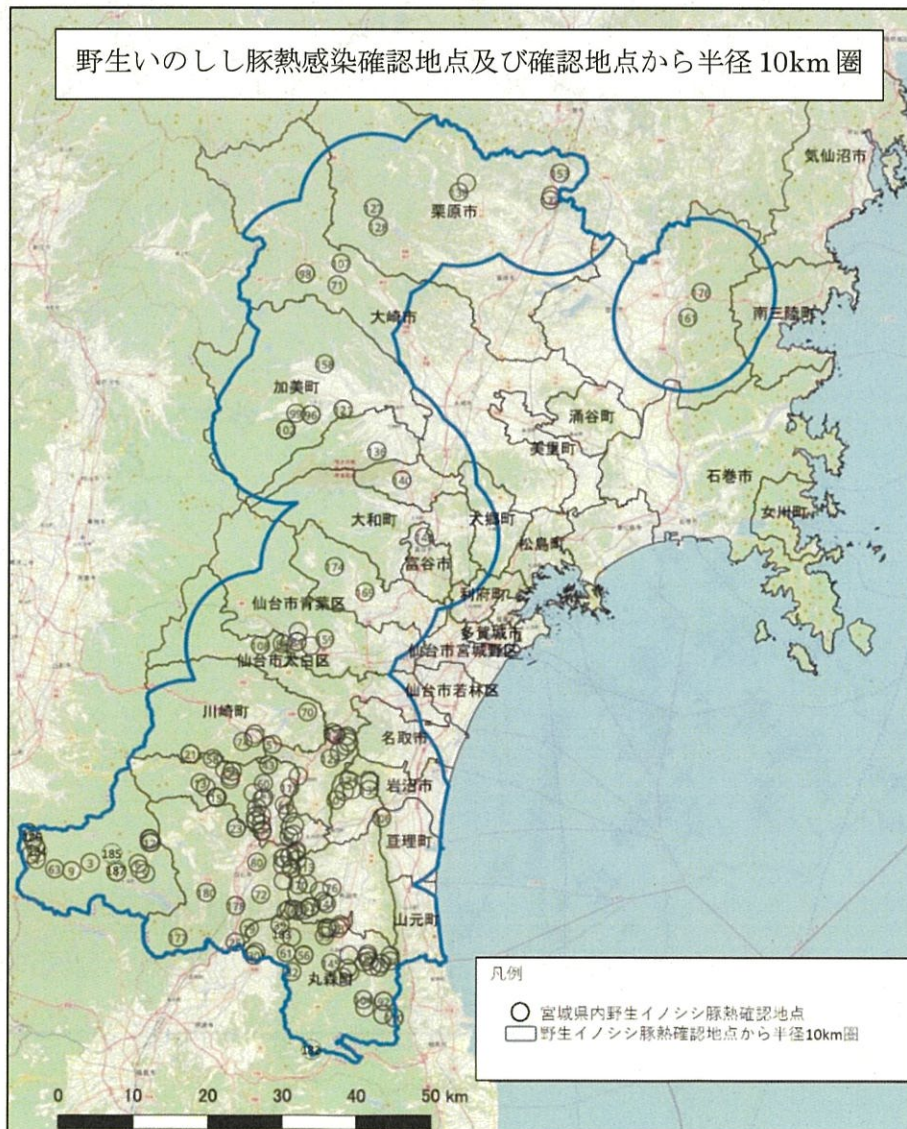
① 死亡 野生イノシシ (平成30年9月から検査開始)

検査年月	検査頭数(市町村別) ※括弧内は陽性頭数														計(陽性)							
	仙台市	白石市	角田市	登米市	栗原市	大崎市	富谷市	蔵王町	七ヶ宿町	大河原町	村田町	柴田町	川崎町	丸森町		亶理町	山元町	大和町	大衡村	色麻町	加美町	
H30年度	10				1							1	1				1				1	15
R1年度								3				1						2				6
R2年度	1	1			1													1				4
R3年度	4	7 (6)	2 (1)				1	16 (15)	3 (3)	4 (3)	1	2 (2)	5 (5)	9 (9)	1 (1)			1				56 (45)
R4年度	3		1 (1)				1 (1)	1 (1)				1 (1)						1 (1)	1 (1)	1 (1)		9 (6)
R5年4月																	1					1
6月														1 (1)								1 (1)
7月														1 (1)								1 (1)
R5年度小計														2 (2)			1					3 (2)
計	18	8 (6)	3 (2)		2		2 (1)	20 (16)	3 (3)	4 (3)	1	5 (3)	6 (5)	11 (11)	1 (1)		2	5 (1)	1 (1)	1		93 (53)

② 捕獲 野生イノシシ (令和2年1月から検査開始)

検査年月	検査頭数(市町村別) ※括弧内は陽性頭数														計(陽性)							
	仙台市	白石市	角田市	登米市	栗原市	大崎市	富谷市	蔵王町	七ヶ宿町	大河原町	村田町	柴田町	川崎町	丸森町		亶理町	山元町	大和町	大衡村	色麻町	加美町	
R1年度												4		4								8
R2年度		43										44		9	39							135
R3年度	25 (5)	21 (6)	20 (5)		39 (2)	19 (4)		29 (14)	22 (13)		58 (5)	9 (3)	15 (1)	140 (19)						40 (9)	428 (83)	
R4年度	21 (5)	63 (8)	17 (3)	13 (2)	33 (5)	7		9 (1)	24	8	46 (4)	9 (3)	8	47 (15)	3	2			14	41 (1)	365 (47)	
R5年4月						2					1		1									4
5月		1									1		1	1								4
6月		2						1			4		1	5								13
7月		2	1	1				1	5 (4)		2			3				1				16 (4)
R5年度小計		5	1	1		2		2	5 (4)		8		3	9				1				37 (4)
計	46 (10)	132 (14)	38 (8)	14 (2)	72 (7)	28 (4)		40 (15)	51 (17)	8	160 (9)	9 (3)	35 (1)	239 (34)	3	2		1	14	81 (10)	973 (134)	

検査頭数(陽性頭数)
死亡 93 (53)
捕獲 973 (134)
計 1,066 (187)



野生いのししにおける豚熱感染の拡大防止のための経口ワクチン散布

◇宮城県では、関係市町や県猟友会、畜産関係団体とともに令和3年10月20日に「宮城県豚熱経口ワクチン対策協議会」を設立し、豚熱ウイルスが野生いのししを介して養豚場周辺に拡散するリスクを低減させるため、野生いのししに対する豚熱経口ワクチンの散布を実施。

【R3 年度散布実績】

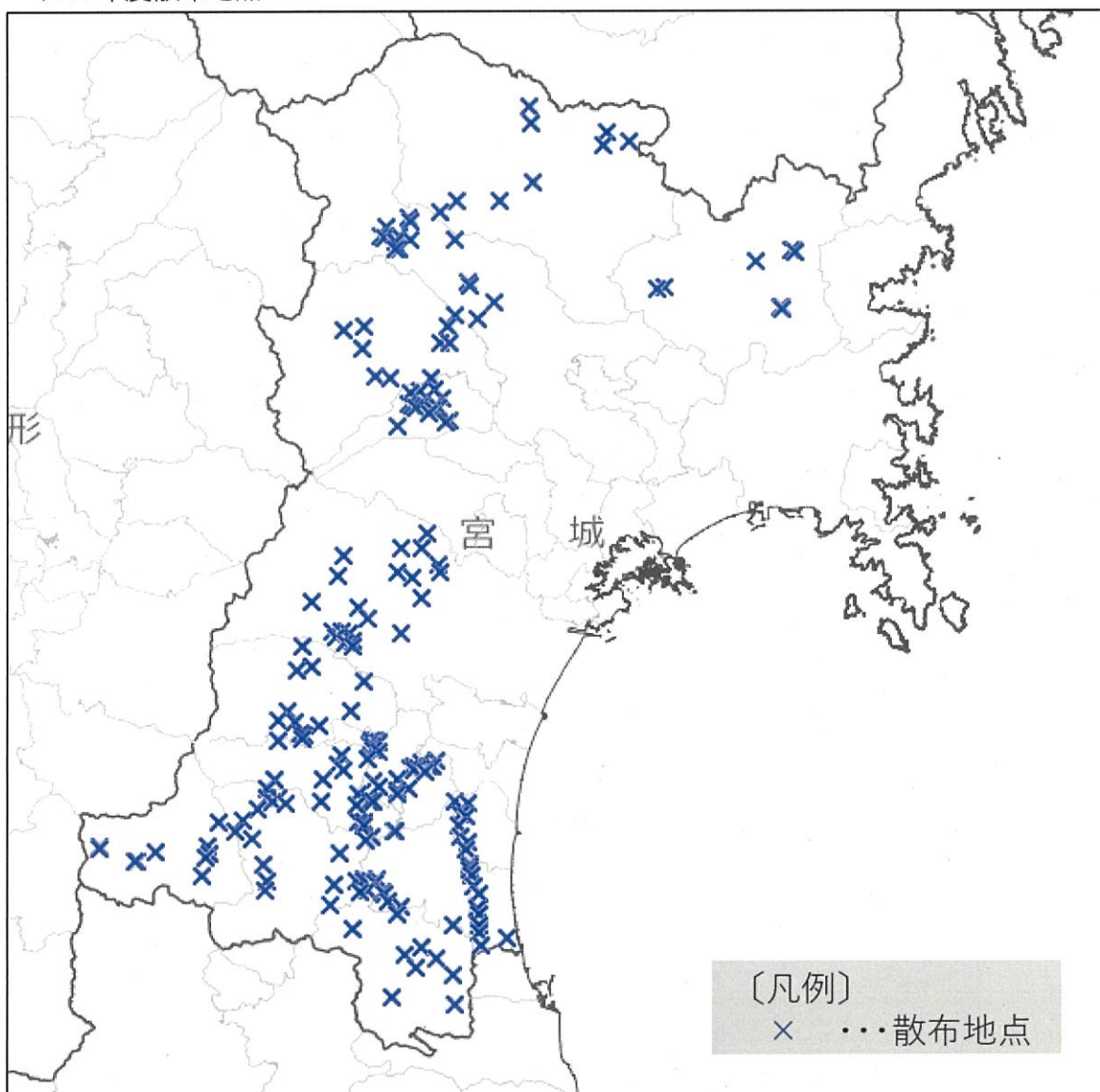
散布地域：仙台市、白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、村田町、川崎町、丸森町、
散布地点：上記8市町の山林等80地点計1,600個（20個/地点）

【R4 年度散布実績】

散布地域：仙台市、白石市、角田市、登米市、栗原市、大崎市、蔵王町、七ヶ宿町、
大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町、亶理町、山元町、色麻町、加美町
散布地点：上記17市町の山林等で複数回散布を実施し、累計509地点にて10,180個（20個/地点）を散布

※R5年度は、散布地域を広げ、21市町村を対象に723地点で14,460個を散布予定。

▼R4 年度散布地点



〔参考〕 野生イノシシにおける豚熱抗体検査

検査年度	検査地域	抗体陽性頭数	検査頭数	抗体陽性率(%)
		A	B	(A/B) × 100
令和3年度	県北地域	20	98	20.4
	仙台	6	25	24.0
	県南地域	63	303	20.8
	計	89	426	20.9
令和4年度	県北地域	71	108	65.7
	仙台	9	21	42.9
	県南地域	115	236	48.7
	計	195	365	53.4

〔参考〕 ドイツにおける経口ワクチン散布の状況

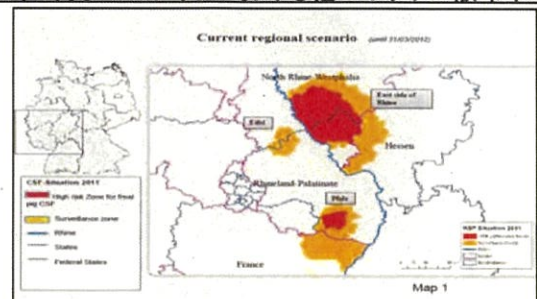
海外の野生イノシシにおける豚熱対策（EU・ドイツの事例）

- ドイツでは、1990年以降、野生イノシシ及び飼養豚でCSFが発生。
- 豚熱の発生時には、
 - ①感染エリアの把握（例：飼養豚及び野生イノシシのサーベイランスの強化）
 - ②感染エリアからのウイルスの持出し防止（例：家畜等の移動制限）
 - ③感染エリア内農場のバイオセキュリティの向上（例：飼養衛生対策の強化）
 等を実施。
- 更に、豚熱の清浄化に向け、
 - ①野生イノシシに対する経口ワクチンの散布
 - ②若齢の野生イノシシをターゲットに狩猟を実施
- EU(EC)では、2001年以降、緊急経口ワクチン接種計画を豚熱対策の一つに位置付け（EC指令2001/89/EC）
- ドイツは、豚熱の発生から野生イノシシにおける最終発生まで約20年を要した。

＜ドイツにおける豚熱の経緯＞

- ・1990年～野生イノシシ及び飼養豚で豚熱が発生、流行
- ・1993年以降2001年まで経口ワクチンの野外試験実施
- ・2002年：EUがドイツにおける経口ワクチン散布計画を承認
- ・2006年5月飼養豚での最終発生
- ・2009年8月以降、野生イノシシでのウイルス検出事例なし
- ・2012年3月に経口ワクチン散布を全面的に中止

＜2012年3月までのドイツにおける経口ワクチン散布イメージ＞



※ 赤色：ワクチン散布ゾーン
黄色：サーベイランス強化ゾーン

韓国での口蹄疫の発生について

(農林水産省ホームページより)

韓国で口蹄疫が発生！

今一度、発生予防を徹底しましょう！

韓国では、2023年5月に4年ぶりに口蹄疫の発生が確認されました。現在、我が国へ侵入するリスクが極めて高い状況が続いています。

過去の日本での発生をみると
まず韓国で発生しています！



2000年 → 2000年

2002年

2010年 → 2010年
2011年

2014年 → 現在

侵入する可能性
は非常に高い！！

韓国における口蹄疫の状況 (2023年5月以降)

2023年5月11日時点



疑わしい症状は直ちに通報を！

口蹄疫は牛や豚などで発熱や食欲不振に始まり、**泡状のよだれ**を流したり、**口、鼻、ひづめ、乳房に水疱(水ぶくれ)**ができるのが特徴です。

～豚の症状～

写真:宮崎県提供



<口蹄疫ウイルスの感染実験の結果>

写真:動物衛生研究部門提供



接種3日目



接種4日目

多数の水疱病変を確認

毎日必ず健康観察し、これらの症状を見つけ次第、直ちに獣医師や最寄りの家畜保健衛生所に連絡しましょう。